令和４年度第３回堺市文化芸術審議会　議事録

１　開催日時

令和５年３月１７日（金）１０時３０分～１２時００分

２　開催場所

堺市職員能力開発センター　研修室

３　出席委員（50 音順・敬称略）

柿本 茂昭　委員	（公募委員）
菅野 陽子　委員	（公募委員）
中川 幾郎　会長	（帝塚山大学名誉教授）
永島 茜　委員	（武庫川女子大学准教授）
弘本 由香里　委員	（大阪ガスネットワーク株式会社エネルギー・文化研究所特任研究員）
藤野 一夫　会長代理	（芸術文化観光専門職大学副学長）

４　出席議事関係者（50 音順）

上田　假奈代　様　　（堺アーツカウンシル　プログラム・ディレクター）

５　事務局職員

文化部長、文化課長、文化課長補佐、文化課企画係長　ほか

６　関係者

・公益財団法人堺市文化振興財団　理事長、事務局長、総務課長、事業課長、事業課係長
・公益財団法人堺市文化振興財団　堺市民芸術文化ホール副館長

７　議題

（１）　令和４年度堺市文化芸術審議会の答申案について
（２）　令和５年度堺市文化芸術活動応援補助金の採点について（非公開）

８　議事録要旨

開会

＜事務局より説明＞

議題
（１）令和４年度堺市文化芸術審議会の答申案について

◎中川会長
　それでは皆さんよろしくお願いいたします。早速議題に入らせていただいてよろしいでしょうか。それでは議題にはいります。議題（１）令和４年度堺市文化芸術審議会の答申案について審議いたします。まず事務局からご説明いただきます。

＜事務局より説明＞

◎中川会長
　はい、ありがとうございます。今、答申書の内容について概略、手を加えたという変更点についてのご説明が中心でしたが、各委員におかれては、実際に現場をご覧になって、ご自身の意見書を出しておられることと思います。それについてはほとんど修正なく書かれているはずなんですが、それらのご確認はしていただけていると思います。
　その上でなお、今日をもう少し述べたいというご意見がありましたら、ご発言いただきたいと思いますがいかがでしょうか。これでと良いという意見も含めていただけたらと思いますので、まず弘本委員からどうぞ。

〇弘本委員
　前回意見したことを受け止めていただいて、加筆いただいてありがとうございます。私の意見に関してはこれで十分なんですけれども、改めて全体を読んでいて、確認したいなと思ったことが何点かあります。一つは 14 ページの重点的方向性 3 のさかい利晶の杜の視察をした部分ですけれども、この重点的方向性 3 というのは多くの人に魅力を伝えるということで、ざっくりとした評価指標ですよね。必ずしも、評価対象としたさかい利晶の杜管理運営事業と一致していないものです。多くの人に魅力を伝えるためにという観点から 3 つの指標がピックアップされ、こうするしか仕方がなかったのでしょうが、評価指標の中に、さかい利晶の杜管理運営事業という今回の評価対象の記載がないことに引っかかったというのが一点あります。
　委員の評価の中では、かなり精密に目標値等を調べられていて、おそらく事務事業評価の方から拾ってこられたんだと思うんですけども、入館者数の目標とか実態についてはかなり丁寧に書かれていて、そこで補ってくださっているので、これはこれでよしと

せざるを得ないのかなと思いますが、今後に向けて、評価指標と評価対象を整合させるのが難しいなという感想を持ったというのが一つです。

それから、18 ページの「おわりに」のところで、今のさかい利晶の杜の話とも関わるんですけれども、私ではない委員の方が書いてくださっていて、その通りだと思ったことがあります。一つが、14 ページに戻りますけれども、特にこの重点的方向性の多くの人に魅力を伝えるというところとも関連して考えると、ここで、14 ページの委員からの評価のところの 3 行目の③で、「これらの施設を中核として、市域内の集客資源等を結ぶ観光ネットワークを構築し、市内周遊への誘導を図ることで、都市魅力の向上及びまちのにぎわいの創出を図る」ということがうたわれているという、さらにその下の③の下から 5 行目のところですよね。この③については、視察した限りにおいては、十分になされていないと思ったということを触れていらっしゃるんです。これは、多くの人に魅力を伝えるというこの評価指標の設定から考えても、重要なご指摘をされているなという気がするんですね。だから、留意点のところにはそこまで詳しくは言及されてないんですけれども、評価の中でちゃんと言及されているので、最後の 18 ページの（3）まとめのところでは、この委員の方がおっしゃっている周囲とのネットワークという点ではまだ改革の余地があるというか、検討の余地があるというようなことを少し加えていただいてもいいのかなという印象を勝手ながら持ちました。私が記載した当事者ではないんですけれども、そこはさかい利晶の杜の役割というものを重点的方向性と重ねて考えると、重要なことをおっしゃっていると。単に館内の事業のあり方というだけではなくて、周囲とのつながりというのが重要だと思ったことが一つです。

それからもう一つ、「おわりに」の（2）のところで、最後に挙げていらっしゃる文化芸術振興事業について、フェニーチェ堺で高校生のダンスをご覧になったことが書かれています。これも私が観た訳ではないんですけれども 12 ページから 13 ページにあたる部分で、これをご覧になった方は、非常に良いプログラムだということは積極的に高く評価されています。一方で、今後のあり方として、選抜して高度なパフォーマンスを目指す場にしていくのか、それとも全校受け入れるというような形にするのか、いずれ分かれ目がくるだろうとか、いろいろと課題を挙げていらっしゃるんですね。ですが、最後のまとめのところでは、これからの子どもたちにとって目標となるものとして評価できるとざっくり総括されていて、これはこれで一つの総括の仕方だとは思うんですけれども、そのためにも今後のより魅力的な運営を考えていく必要があるとか、一言課題的な言及がなくてもいいのかというのが、気になって引っかかったというのがあります。その 2 点が、「おわりに」の記述を見ていて感じたところです。

◎中川会長

はい、ありがとうございます。菅野委員どうぞ。

〇菅野委員

答申書全体のことを通してお話させていただくんですけども、前回、先生方が指摘さ

れていた部分に関しては、追記されていて、問題点とか今後の検討することが明確になってきているなと思います。これを基に、毎年ブラッシュアップしていくことで、より良い堺市の文化芸術、堺市民に開かれた文化芸術というのが良くなっていくのかなと思いました。

先ほど弘本委員がおっしゃったように、一つ一つの施設や事業は本当に素晴らしいものが出来てきているので、それらをどのように繋げていって、1個で終わりではなくて、特に施設は周遊ができると、その1個1個に対する繋がりができていって、より多くの人に魅力が伝わるのかなと思いますので、そういったところも答申書なども追加していただければと思います。以上です。

◎中川会長

はい。ありがとうございます。では、藤野委員どうぞ。

〇藤野委員

はい。「おわりに」のところの記述で付け加えたところ、今読んでいただいたところですけど、重点的方向性の2ですよね。繰り返しますと、「次年度以降も同方向性の実現に向けてフェニーチェ堺等の市内文化施設へのインリーチの開拓を含めた多様なプログラムの追求と量的な拡大への努力が一層望まれる。」、これは活かしていただいてありがとうございます。その後の「そのためには、堺市文化振興財団が中心となって市民の中からアートコーディネーターを育成する等、持続的・発展的な運営の仕組みを検討する必要がある。」というところが加わっています。このアートコーディネーターというのは、どこの自治体でもあります。財団でも育成しなくてはいけないともう長く言われてきたことなんですね。だけど、本当にそういったものが拡大しているかということを考えると、なかなか困難な面もあるなと感じています。

で、どういう問題かということなんですけども、例えば、私の経験で言うと2006年から十数年の神戸国際芸術祭というのが、最初は大学中心、それから文化振興財団と一緒にやってきたときに、芸術祭を支えるボランティア育成講座というのをやって、その時はですね、予想以上に参加者が多くて80人とか100人のボランティアスタッフが参加されて、毎年それを楽しみにしてくださった。その中からプロフェッショナルな人も出てきたりとかして、今でも繋がりを持っている方がいるんですが、全般に高齢化が進んでいるということです

私がいる今いる但馬のところでも、この前会議をやって思ったんですが、やっぱり70代以降の高齢者で元気な方はまだやりますって感じなんですけれども、若い人と交わったときに、自分たちはもう無償ボランティアみたいなのは無理ですと話がたくさん出てきました。

国全体の人口動態を見ると、私よりも10歳年上の世代ですね、いわゆる団塊の世代、今75歳、後期高齢者になった人たちが250万人ぐらい産まれていたわけですね。今年の出生者数が80万人切りました。3分の1、4分の1になっていると。さらに団塊ジュ

ニアというのは、次の塊としているわけですが、この人たちは非正規雇用が非常に多くて、非常に不安定な状況で、余暇をボランティアみたいに使うようなということが非常に出来にくい世代になってきています。

そういうことを考えると、まず市内の人口動態を見たときに、その市民の中からと書いてありますが、市民って一体どういう人なんだろうという、ちょっと精度を上げて、分析してみる必要あるんじゃないかなと。どういう年代の、どういう社会階層の人が可能なのかということを考える必要があるんじゃないかなと思います。

おそらく無償での市民ボランティアは美徳だという価値観は、20 年前はかなり有効だったんですけど、今日はもうそれもちょっときついし、あまりそういうことを言えなくなってきているんじゃないかと。つまり、市民ボランティアのアートコーディネーターというよりも、やはり、専門職できちんと採るべきではないかなというふうに考えています。そうしないと、本当に持続可能にもならなくなってしまう気がします。そのところが、どうも理想論で言っているのと、現場の実態とが乖離しているんじゃないかなという気がします。むしろ財団の担当されている方から、この辺りの実感をぜひお伺いしたいなと思います。

◎中川会長

はい、ありがとうございます。答申についてはこれでよろしいですか。

〇藤野会長代理

実際こういうことがどれくらいポテンシャルとして可能なのかということです。その意味でもかなり時代が変わってきているという認識がありますので。

◎中川会長

はい、ありがとうございます。では、柿本委員どうぞ。

〇柿本委員

さっき弘本委員からご紹介いただいたご意見もありましたが、答申案については、この間の意見も踏まえて、書いていただいて、素晴らしいと思っています。

感想としまして、弘本委員がおっしゃったとおり、もったいないなと。折角立派な施設であるのに、それがもう単館的に独立し過ぎてしまって、せっかく良い立地でもあるし。例えば博物館だとか、いろんな文化施設と連携するようなそういうコーディネートがあれば、もっともっと良くなるんじゃないかというふうに思っています。どこがコーディネートするのかという問題もありますけれども、短期間でできることではないかもしれませんけれども、そういう目で今後、運営を考えていただければありがたいなというふうに思います。

◎中川会長

はい、ありがとうございます。永島委員どうぞ。

〇永島委員

先ほど、各委員の先生方からおっしゃっていただいたことを少し発展させてというか、菅野委員がおっしゃったように、施設間の周遊であったりとか、あとは各会館の連携ということを考えていったときに、指定管理者が施設になっている場合ですと、どうしてもコミュニケーションが行き届きにくくなったりとか、今後、直接堺市が管理したりとか、財団が管理しているような施設ですと、意思疎通がしやすいところであると思います。さかい利晶の杜というのは指定管理者の問題が大きくあると思いますので、指定管理者であっても直轄であっても市民から見たら同じわけですから、そこが指定管理者になったときでも、この内容がきっちりと反映されるようなことが一つ、書き加えておくというか、ここに加えるかどうかは別としてかなり重要な点になってくるのかなと思いました。

藤野委員がおっしゃったみたいに、アートコーディネーターに関しては、もちろん専門職にするということも必要ですし、一方で、ボランティアさんに任せていると、その責任、何回か前の審議会でも議題になったと思うんですけれど、やはり責任を持ってコーディネートしていただくということも考えると、ボランティアで任意に任せるというのも限界があるのではないかと考えました。以上です。

◎中川会長

はい、ありがとうございます。今いただいたご意見についていくつか加筆修正した方がよかろうと思うところがありますね。

委員がおっしゃったことのなかで、これが永島委員、藤野委員がおっしゃった、最後の 18 ページの「アートコーディネーターを育成する」の前に何か入れた方がいいね。やっぱり、「専門的な」か、もしくは「訓練された」か、何か要ると思いますね。単にボランティアにお願いしますというレベルじゃないので。これは行政内部にも、コーディネーターと対話ができる能力を開発する必要があるということと、財団にもそれは必要ですよと、そういう位置づけで理解は進んでいたと思うんですよね。それがちょっと気になりました。

さかい利晶の杜関連についてはお二方から意見が出ているので、記述を追加した方がいいと思います。この修正については、事務局一任で最終的に私がチェックすることでご理解ください。ありがとうございます。

議題

（２）令和５年度堺市文化芸術活動応援補助金の採点について

非公開情報を含むため非公開とする。